土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　丹屋奥谷西川通常砂防事業に伴う業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.1	**調査位置**	広島県福山市水呑町　地内			**北緯**	34° 26′ 27.4041″
発注機関	広島県東部建設事務所			**調査期間**	2019年　9月 25日 ～ 2019年　9月 26日	**東経**	133° 22′ 19.1211″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 115.44m	**角度**	180°上下 90° 0° 0°	**方位**	北 0° 270°西 90°東 180°南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 20°
総削孔長	6.00m					**使用機種**	**試錐機**：東邦地下工機　D1-B **エンジン**：ヤンマー　NFD-13　**ポンプ**：東邦地下工機　BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定年月日
	114.74	0.70		礫混じり砂		褐～黄褐			新生代第四紀	0.25mまで表土。以深，崖錐堆積物に相当。細粒の砂質土を主体に，φ40mm以下の礫分を混入する。基盤岩の土砂化が強いため，境界は不明瞭である。	
1	113.64	1.80		強風化流紋岩		黄褐				やや均質に土砂化している。コアは半固結の礫混じり砂状を呈す。強い指圧～ハンマーの微打で細砂状に粉砕できる。【DL級岩盤に相当する】	09/26 2.05
2	112.64	2.80		強風化流紋岩		褐				細礫サイズの岩片が多くなる。コアおよび貫入試料は礫質である。岩片はやや軟質な程度であり，指圧砕は困難である。【DM級岩盤に相当する】	09/26 3.20
3				風化流紋岩		黄灰～黄褐			中生代白亜紀	ごく短柱状コアを主体に，所々で角礫状と化す。岩片は概ね中硬質である。ランダム方向の割れ目が発達し，所々で強い砕片化を伴う。分離に至っていないヘアークラックも多い。3.6～4.0m間，弱い土砂化を伴い，局所的にはDH級とも考えられる。【全体としてはCL級岩盤に相当するが，4.0mまではDH級岩盤として扱うのの方が良い】	
4											
5	110.24	5.20		流紋岩		淡黄灰				概ね10cm以上の柱状コアとなる。岩片も新鮮度を増しており，中硬質～硬質である。ほぼ水平と70°の高角割れ目が発達し，幅1cm弱の砕片化を伴うことがある。【CM級岩盤に相当する】	
6	109.44	6.00									
7											

標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50）

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
21	1.15	4	4	13	21/300		
	1.45						
38	2.15	9	11	18	38/300		
	2.45	貫入不能			50/0		
	3.00						
	4.00	貫入不能			50/0		
	4.00						
	5.00	貫入不能			50/0		
	5.00						
	6.00	貫入不能			50/0		
	6.00						

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	原位置試験 室内試験	削孔月日
				9/25
				9/26